

令和5年度

越谷市公共下水道事業経営戦略

モニタリング結果

目次

○ 投資計画についてのモニタリング	1
◆ 各計画の進捗状況について	1
・ スtockマネジメント計画に基づく事業実施状況	1
・ 総合地震対策計画に基づく事業実施状況	3
・ 耐水化計画に基づく事業実施状況	4
・ その他実施事業の状況(浸水対策事業)	4
○ 財政計画についてのモニタリング	5
◆ 収益的収支について	5
◆ 資本的収支について	6
◆ 繰入金について	6
◆ 経営指標について	7
○ 総括	7

投資目標

将来にわたり安定的に下水道の機能を維持するため、老朽化した施設の改築・更新を計画的に進める。
また、老朽化によるリスクだけではなく、自然災害によるリスクについても地震対策、浸水対策として計画的に実施する。

○投資計画についてのモニタリング

◆各計画の進捗状況について

・ストックマネジメント計画に基づく事業実施状況

【管路施設】進捗状況（令和5年度末時点）

計画期間：平成31年度～令和5年度

計画期間：平成31年度～令和5年度								
処理区・排水区の名称	種類	対象施設	布設年度	対象延長及び枚数		実施延長及び枚数		進捗率
越谷第5処理分区	汚水	マンホール蓋交換	－	107枚	157枚	107枚	157枚	100.0%
越谷第6処理分区	汚水	マンホール蓋交換	－	50枚		50枚		
越谷第6処理分区	汚水	管渠	1988	152.43m		152.43m		100.0%
出羽堀排水区	雨水	管渠 (出羽堀第2号雨水幹線)	1970	－		－		－

管路施設の状況

- ・マンホール蓋交換については、令和5年度に88枚の交換を実施し、進捗率が100%となりました。
- ・管渠の改築については、既に計画期間内の対象箇所を実施済みのため、令和5年度の施工実績はありません。

【ポンプ場施設】進捗状況（令和5年度末時点）

計画期間：平成31年度～令和5年度

処理区・排水区の名称	種類	対象施設	設置年度	施設能力	実施設計	施行年度
東越谷第一ポンプ場	汚水	仕上	1988	23.00 m ³ /min	令和元年度	令和3年度～令和4年度
		自家発電設備				
		制御電源及び計装用電源設備				
		負荷設備				
鷺高ポンプ場	汚水	仕上	1988	45.00 m ³ /min	令和元年度	令和5年度～令和6年度
		自家発電設備				
		監視制御設備				
		脱臭設備				
越谷第一ポンプ場	雨水	スクリーンかす設備	1980	288.36 m ³ /min	-	-
御料堀ポンプ場	雨水	雨水沈砂設備	1987	600.00 m ³ /min	-	-
出羽堀ポンプ場	雨水	汎用ミニUPS	1991	492.00 m ³ /min	-	-
新川ポンプ場	雨水	自家発電設備	1991	180.00 m ³ /min	-	令和元年度
塚田ポンプ場	雨水	制御電源及び計装用電源設備	2000	72.00 m ³ /min	令和元年度	令和3年度
東越谷雨水ポンプ場	雨水	制御電源及び計装用電源設備	2005	143.16 m ³ /min	-	令和2年度
東町ポンプ場	雨水	制御電源及び計装用電源設備	2008	187.80 m ³ /min	-	令和3年度

ポンプ場施設の状況

- ・汚水ポンプ場については、令和5年度は鷺高ポンプ場電気設備改築工事（令和5～6年度の2か年工事）を行い、現在施行中です。
- ・雨水ポンプ場については、令和5年度の施工および完了実績はありません。

・総合地震対策計画に基づく事業実施計画

【管渠】進捗状況（令和５年度末時点）

計画期間：令和５年度～令和９年度

処理区・排水区の名称	種類	事業内容	布設年度	対象延長等	実施延長及び枚数	進捗率
越谷第7-1処理分区	汚水	管更生	1989	190.25 m	0 m	0.0%
越谷第7-1処理分区	汚水	可とう継手設置	1989	4箇所	0箇所	0.0%
-	汚水	マンホール浮上防止	-	127基	40基	31.5%

※平成30年度から令和４年度の進捗状況に関しては、令和４年度モニタリング結果に掲載しています。

管渠の状況

- ・令和５年度より第３期目の事業実地計画に基づき事業を実施しています。
- ・管路施設については、令和５年度の施工実績はありません。
- ・マンホールについては、令和５年度は40基に浮上防止対策を行いました。

【ポンプ場施設】進捗状況（令和５年度末時点）

計画期間：令和５年度～令和９年度

処理区・排水区の名称	種類	事業内容	設置年度	施設能力	耐震診断	補強設計	耐震化工事
東越谷第二ポンプ場	汚水	補強設計、耐震化工事	1978	5.00 m ³ /min	令和元年度	令和５年度	令和６年度
千間台第二ポンプ場	汚水	補強設計	1972	2.00 m ³ /min	令和元年度	令和５年度	-
東越谷第一ポンプ場	汚水	補強設計、耐震化工事	1988	23.00 m ³ /min	令和元年度	令和２年度	令和６年度
間久里ポンプ場	汚水	補強設計、耐震化工事	1993	9.00 m ³ /min	令和元年度	令和７年度	令和８年度
出羽堀ポンプ場	雨水	耐震化工事	1991	492.00 m ³ /min	令和元年度	令和３年度	令和９年度
越谷第二ポンプ場	汚水	補強設計	1990	12.00 m ³ /min	令和元年度	令和９年度	
花田ポンプ場	汚水	耐震診断	1988	2.00 m ³ /min	令和５年度		
外野合ポンプ場	雨水	耐震診断	1997	42.00 m ³ /min	令和５年度		

：第2期計画で実施済み
 ：第3期計画で実施済み
 ：第4期計画以降で実施

※平成30年度から令和４年度の進捗状況に関しては、令和４年度モニタリング結果に掲載しています。

ポンプ場施設の状況

- ・令和５年度より第３期目の事業実地計画に基づき事業を実施しています。
- ・汚水ポンプ場については、令和５年度に花田ポンプ場の耐震診断と、東越谷第二ポンプ場および千間台第二ポンプ場の補強設計を行いました。

・耐水化計画に基づく事業実施状況

計画期間：令和5年度～令和9年度

処理区・ 排水区の名称	種類	事業内容	設置年度	施設能力	基本設計	詳細設計	工事
東越谷雨水ポンプ場	雨水	基本設計、詳細設計、工事	2005	143.16 m ³ /min	令和6年度	令和7年度	令和8年度
東町ポンプ場	雨水	基本設計	2008	187.80 m ³ /min	令和7年度	-	-
塚田ポンプ場	雨水	基本設計	2000	72.00 m ³ /min	令和7年度	-	-

- ・令和5年度より耐水化計画に基づき事業を開始しました。
- ・令和5年度の施工実績はありません。

・その他実施事業の状況（浸水対策事業）

- ・新方川流域の浸水対策については、せんげん台駅東口における浸水対策のための貯留施設の基本設計を行いました。また、「一級河川新方川河川改修事業に伴う越谷樋門（第二古川（東武鉄道）ゲート）改築工事に関する協定」に基づき、事業に着手しました。
- ・元荒川流域の浸水対策については、左敷田ポンプ場の増強に係る実施設計を実施しました。

財政目標

公営企業の運営は、独立採算制が原則であることと、また、汚水私費、雨水公費が原則であることを踏まえ、財源の確保に努める。

○財政計画についてのモニタリング

◆収益的収支について

単位：千円

		令和4年度 計画値	令和4年度 決算値	令和5年度 計画値	令和5年度 決算値	令和5年度 計画値 と決算値の差額	令和5・4年度 決算値の差額
収益的 収支	収益的収入	6,705,868	6,396,616	6,696,995	6,350,185	△ 346,810	△ 46,431
	1. 営業収益	4,700,465	4,405,733	4,681,756	4,419,627	△ 262,129	13,894
	うち 料金収入	3,645,723	3,458,533	3,643,618	3,440,953	△ 202,665	△ 17,580
	2. 営業外収益	2,005,403	1,990,883	2,015,239	1,930,559	△ 84,680	△ 60,324
	うち 長期前受金戻入	1,837,330	1,831,929	1,859,981	1,810,459	△ 49,522	△ 21,470
	収益的支出	5,991,478	5,679,575	5,992,774	5,721,385	△ 271,389	41,810
	1. 営業費用	5,467,169	5,254,460	5,526,088	5,356,381	△ 169,707	101,921
	うち 減価償却費	3,310,286	3,268,077	3,371,379	3,264,043	△ 107,336	△ 4,034
	2. 営業外費用	524,309	425,116	466,686	365,004	△ 101,682	△ 60,112
	うち 支払利息	379,504	357,878	321,882	303,041	△ 18,841	△ 54,837
経常損益		714,390	717,041	704,221	628,800	△ 75,421	△ 88,240

※表示単位未満を四捨五入しているため、表の項目と合計値が合わない場合があります。

収益的収支の概要について

収入については、料金収入や国庫補助金が減少したことなどにより、前年度決算額から約4,600万円減少し、計画値からは約3億4,600万円の減少となりました。料金収入が減少した要因として、13㎡から40㎡の使用水量が計画値を大きく下回ったことが挙げられます。

支出については、人件費は減少したものの、動力費や修繕費等が増加したことなどにより、前年度決算額から約4,100万円の増加となりました。また、計画値との比較では、動力費や修繕費等が増加しましたが、人件費や支払利息、減価償却費が減少したことなどから、2億7,100万円下回りました。

◆資本的収支について

単位：千円

		令和4年度 計画値	令和4年度 決算値	令和5年度 計画値	令和5年度 決算値	令和5年度 計画値 と決算値の差額	令和5・4年度 決算値の差額
資本的 収支	資本的収入（計）	2,921,222	2,199,666	2,276,096	1,854,866	△ 421,230	△ 344,800
	うち 企業債	1,788,900	1,114,200	1,311,600	852,400	△ 459,200	△ 261,800
	資本的支出（計）	5,159,448	4,046,492	4,443,042	3,840,964	△ 602,078	△ 205,528
	うち 建設改良費	1,777,682	730,811	1,268,591	722,310	△ 546,281	△ 8,501
	うち 企業債償還金	3,381,766	3,303,006	3,174,451	3,102,566	△ 71,885	△ 200,440
資本的収入額が資本的支出額に不足する額		2,238,226	1,846,826	2,166,946	1,986,097	△ 180,849	139,271

※表示単位未満を四捨五入しているため、表の項目と合計値が合わない場合があります。

資本的収支の概要について

収入について、企業債が計画値よりも約4億5,900万円減少していますが、事業の見直しや修正に伴い、借入額が減少したことが要因です。

支出については、企業債償還金の割合が多くなっていますが、前年度から約2億円減少しており、今後も減少傾向にあります。建設改良費に関しては、事業の見直しや修正に伴い、計画値から約5億4,600万円減少しました。また、前年度との比較では、建設改良費において、ポンプ場改良費等が減少したことから、全体では約800万円減少しました。

◆繰入金について

単位：千円

		令和4年度 計画値	令和4年度 決算	令和5年度 計画	令和5年度 決算	令和5年度 計画値 と決算値の差額	令和5・4年度 決算値の差額
収益的収支分（計）		1,216,202	1,072,633	1,186,783	1,081,647	△ 105,136	9,014
	うち 基準内繰入金	1,205,202	1,063,364	1,175,783	1,072,567	△ 103,216	9,203
	うち 基準外繰入金	11,000	9,270	11,000	9,080	△ 1,920	△ 190
資本的収支分（計）		764,650	907,367	701,769	802,353	100,584	△ 105,014
	うち 基準内繰入金	758,650	798,911	695,769	682,099	△ 13,670	△ 116,812
	うち 基準外繰入金	6,000	108,456	6,000	120,254	114,254	11,798
合 計		1,980,852	1,980,000	1,888,552	1,884,000	△ 4,552	△ 96,000

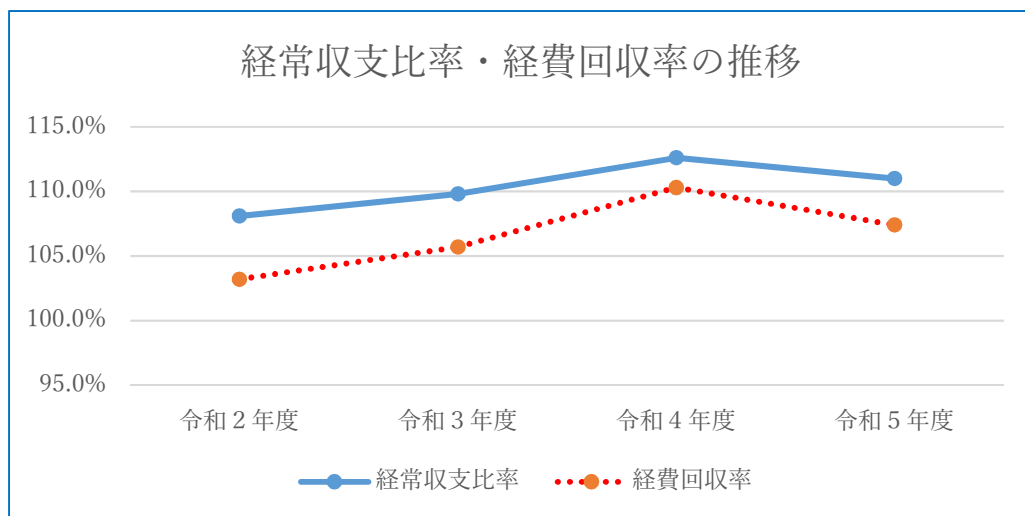
※表示単位未満を四捨五入しているため、表の項目と合計値が合わない場合があります。

繰入金の概要について

計画値との比較では、約400万円減少し、前年度からは約9,600万円減少しました。基準外繰入金については、資本的収支分において、計画値から約1億円増加しましたが、事業費の見直しや繰入金充当事業の進捗により、収益的収支分の基準内繰入金が増加したため、資本的収支分にて差額を受け入れることとしことから、増加しました。なお、資本的収支分の決算額は、前年度からは約1億500万円減少しました。

◆経営指標について

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支比率	108.1%	109.8%	112.6%	111.0%
経費回収率	103.2%	105.7%	110.3%	107.4%



※経常収支比率：下水道使用料等の経常的収入が、人件費等の経常的支出にどれほど充てられたかを示す指標

※経費回収率：下水道使用料で充足すべき経費をどれほど充足できたかを示す指標

経営指標の概要について

経常収支比率については、水洗化人口や有収水量の減少により、下水道使用料が減収となったこと、維持管理費等の経費が増加したことなどから、前年度比 1.6 ポイント減の 111.0%となりました。

経費回収率については、前年度比 2.9 ポイント減の 107.4%となりましたが、100%を超えていることから、下水道使用料により経費が十分に賄えています。

○総括

財政計画については、経常収支比率・経費回収率ともに健全経営の水準である 100%を超えていることから、前年度と比較して減少したものの、健全な経営が行われていると考えられます。数値の減少の要因としては、収入では、料金収入が水洗化人口や有収水量の減少の影響などにより減収したこと、支出では、材料費や委託料等の維持管理に係る経費が増加したことなどが挙げられます。また、今後についても人口減少に伴う下水道使用料の減収等、様々な問題に直面することが予想されます。このため、安定したサービスを継続するためにも、引き続き経営分析に取り組むとともに、分析結果に応じた適切な施策が必要です。

投資計画については、ストックマネジメント計画や、総合地震対策計画などにに基づき施設の改修・修繕を計画的に進めています。本市の管渠の多くは布設から 50 年近くが経過し、今後法定耐用年数を超過する施設が増加します。安定した事業運営を継続するためには、管渠老朽化率の上昇への対応が課題となります。このため、調査・計画に基づく施設の改修や修繕を実施するとともに、費用の平準化を図る必要があります。

今後についても適切な経営分析を行い、健全な事業運営に取り組んでまいります。